

4.

発達段階に応じた食に関する指導の実際

学校における食育を進めるためには、食に関する指導の基本的な考え方、指導方針等を明確にし、教職員の共通理解を図り、学校給食を生きた教材として活用しつつ、給食の時間はもとより、各教科や特別活動、道徳、総合的な学習の時間といった教育活動全体を通して行われることが必要である。

そこで、ここでは小学校、中学校および特別支援学校高等部における「食に関する指導」の具体的実践例を取り上げ、学習指導案と参考資料を掲載した。

これらの実践例を参考にし、学校や学級の実態に応じて創意工夫に努め、食に関する指導の学習を展開していくことが望まれる。

給食の時間における指導

毎日繰り返される給食の時間は、児童生徒にとって貴重な食の体験の場となる。「給食指導のねらい」を踏まえつつ、教科等との関連を図った指導を盛り込むことで、教科等で学習した内容を確認したり、興味や関心を持たせることができる。

教科等における指導

教科等の時間においては、教科等のねらいを達成するための一つの方法として、また、食に関する指導の目標を達成するために、給食を「生きた教材」として活用することができる。さらに、栄養教諭や学校栄養職員、養護教諭等と学級担任とのチームティーチングを取り入れることで、より効果的な指導を行うことが期待できる。

食育のイメージ図

